

いばら姫が無防備に眠っていた
眠りがとても深いようで
可愛らしい寝息を立てている。

少女を守るものは何もない。
ベッドの上には少女と、
劣情を催す飢えたオオカミがふたりきり。



なんどか揺すって見たが反応がない
これはもしや、と思い慎重に下着を降ろす。
するとぷっくりとしたワレメと
可愛らしい幼い蜜壺が顔を出した。





肛門の周りの肉を指で押しわけ、
ペニスを充てがってみる。
あまり拡がらない女児のアナルに
強い興奮を覚えた。

…おそらく彼女は目覚めないだろう。



いばら姫の肛門にペニスを沈めていく。
おそろく排便以外では使ったことがない
幼い蜜壺は強く締め付けながら
男根を受け入れていった。

根本まで幼いアナルに陰茎を捻込んだ。
自分の腕ほどもあるだろう異物に
熟睡しながらも時おり声を上げる。

そのたび括約筋がキュツキュと締め、
心地よい快感が身体を駆け上ってきた。



子供にとって暴力的な大きさの陰茎を
ゆっくりと引き抜いていく。
あまりの大きさに内部を捲り上げられ
限界まで広がった肛門から腸壁が
少し覗き、身体を大きく震わせる。

幸いお腹の中が空っぽのようで
便は付着していなかった。
これで思う存分、無抵抗の子供アナルを愉しめる。



はん、

再度幼い肛門に陰茎を突き入れる。
ある程度太さに慣れてきたのか
先程の強烈な抵抗感はなく、
スムーズに肉棒を受け入れた。

オナホールでは到底たどり着けない
生の快楽に興奮が最高潮に達し、
ペニスはがはち切れんばかりに膨張していく。

起きないことを確認し、
腸壁が完全に外に露出するほど
激しいピストンで肛門を責め立てる。
子供特有の柔らかな直腸が
ペニス全体を包み込み、
幼い括約筋が必死で締め付けてくる。



眠りが浅くなつたのか短い嬌声をあげるいばら姫。
いくら放精しても尽きることのない
快樂の渦が身体を支配していく……

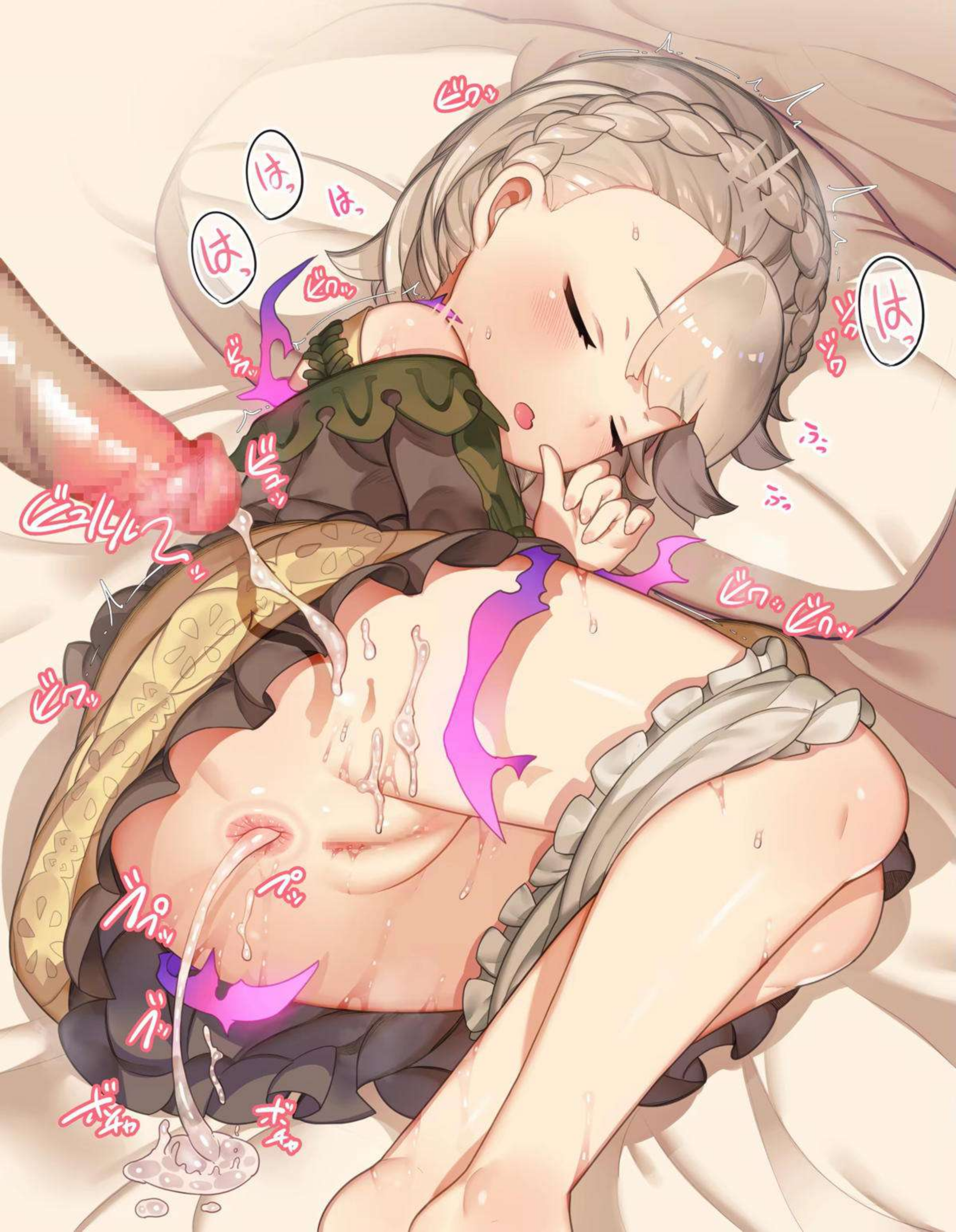
限界に達したペニスを
エス状結腸に届くほど強引にねじ込み、
一気に腸内に流し込んだ。



肛門から引き抜いた後も射精が続き
いばら姫の衣服や肌を汚していく。
どぶどぶと白濁した汚い精液がいく
幼い子供を侵していく様にひどく興奮する。

同時に彼女も直腸射精された精液を
生理現象によつて音を立てながら排泄していく。
まだ年端もいかなない少女の耽溺は異様なコントラストを見せた。

なかだし



陵辱されきった肛門を指で押し広げる。
時おり快樂の残滓に身体を震わせながら
こんこんと眠る。いばら姫は歪ながらも
綺麗に思えた。

また深い眠りの中に堕ちていく。
可愛らしい衣服はどろどろに汚され、
真珠のよう白い肌はどろどろに汚され、
濁った欲望で塗りつぶされている。







